



平成27年8月発行 発行者 砺波カイニョ倶楽部 代表幹事 出村 忍  
事務局 富山県砺波市表町 14-10 電話 0763-33-6588 天野一男建築工房内

## 三様の滑川のカイニョにふれる



7月18日(土)滑川市内の三軒のカイニョと家屋を見学する集いを開き、20名が参加した。朝の車中で出村忍代表幹事が、滑川のカイニョにふれ元気をもらう日にしよう。又、過日東京で自民党屋敷林保全検討会に招かれ発言した経過も説明した。加え、見学する三軒の特徴を柏樹直樹幹事が紹介した。

当日は、台風の通過と重なり中屋宅では雨の中の見学となったが、その後、次第に晴れ上がった。約3時間のカイニョ見学会の内容は

- (1) 中屋敏子宅：スギ、ケヤキ、カシの相観。敷地は広く、手入れが出来ず「やぶ」になっている。
- (2) 山下徳樹宅：前庭中心に手入れがされた屋敷。母屋後ろと左右は狭く、スギが列状に入る。
- (3) 松井信義宅：スギ、ケヤキの高木と中低木も多い。前庭は広く、列状にスギが配置。手の入ったカイニョ。

と、三者三様のタイプにふれた。

三軒の見学後、滑川市博物館で副館長さんから館内展示をとおし、滑川市全体の説明を聞いた。

ハプニングに近い接待を受けたのは中屋さん宅。全員座敷にあがり、茶会の7人の方のお世話で抹茶のもてなしを受け、奥さんから広間で議事が開かれたことや、村長をしてきた歴史、俳句会、茶会を催したことを聞いた。

又、松井さん宅では、大きい広間にあがり重厚なワクノウチと23代続く家の歴史を聞いた。

カイニョを大事にし、一緒であったことが長寿にもつながっていると、強調された。

帰りの車中で全員が感想を発言して、一層中味の“コイ”見学会となった。

夕方、散居村ミュージアムに到着し、散会した。

翌日、見学会の様相を北日本新聞と富山新聞が報道した。(中屋さん宅 茶室の前庭 カイニョに囲まれ)



(山下さん宅 前庭で話を聞く 庭と前庭が区分け)



(松井さん宅 こんもりしたカイニョ)

## 参加者の一口感想



- さん：中屋宅の家と屋敷に一日だけでも住んでみたい。  
 Kさん：これから先の維持が、家もカイニョも心配。  
 Hさん：大変カイニョに苦労し、お金もかけてみえる。  
 ○さん：沢山、蚊がいてびっくりした。(刺された)  
 Aさん：こうした集いにこれからも参加したい。  
 Aさん：中屋宅のカイニョの規模は、大きすぎた。  
 松井宅で、カイニョのお蔭で健康だという話に心をうたれた。  
 Nさん：こういう機会には、是非、でたい。  
 Kさん：中屋宅の家もカイニョもこれからの維持が心配。その点、松井宅の手入れは立派だった。  
 Hさん：もう少しゆっくりカイニョ内を観察できるとよい。  
 Tさん：まっすぐな樹木の成立に救われた。維持は大変だ。  
 Hさん：高木のある家は安心感がある。色んな情報がもらえた。  
 Mさん：中屋宅のカイニョには支援したい。是非、地域で守って欲しい。  
 Tさん：三者それぞれ、色んな刺激がもらえた。維持はひどだろう。  
 ○さん：中屋宅の奥さんの一人住まい、心配に思った。  
 Nさん：この次の機会にも期待。  
 Dさん：滑川でも“カイニョ”が通じ元気をもらった。木を植えることが始まり。  
 建物の座敷の位置が砺波と違っていた。  
 Tさん：来年は是非、美女平のスギを見に行こう。  
 Kさん：三軒ともケヤキの大木があり、立地がよいのか？中屋宅のスギの活力は見事。  
 木のお蔭という言葉に感動。  
 ○さん：それぞれの家の匂い・空気があり、癒された。山・ケヤキ・草の匂いと自然を感じた。  
 Kさん：カイニョ維持のためには、労力と金がかかる。

見学会等原稿は、柏樹幹事より

## カイニョ剪定講習会の参加者募集

- 日時 8月22日(土) 午前8時30分~11時30分 (小雨決行)
- 場所 となみ散居村ミュージアム
- 剪定ばさみ と ノコギリを持参下さい なお、軍手・長ズボン・長靴・長袖
- 講師 砺波造園組合の方 □当倶楽部と市農地林務課とミュージアムの共催
- 申し込みが必要です 事務局 天野まで(33-6588 090-9444-8655)

締め切り 8月13日(木) (人数の制限があります。保険加入します)



# 自民党本部で、屋敷林・散居村の保存をお願い

## 「屋敷林のある散居村を世界遺産に」

7月15日午前8時～9時。自由民主党本部政務調査会、観光立国調査会「屋敷林・散居村・生垣等の地域景観資源の保存・活用に関するワーキングチーム(WT)」のヒヤリングに夏野砺波市長と島田市企画調整課長、そして、代表幹事の出村と事務局の天野が出席しました。なお、安曇野も出席し、2地区から発表。

WTは、最高顧問に細田博之代議士、座長は橋慶一郎代議士、事務局長は務台俊介代議士(長野県)です。なお、このワーキングチームは務台俊介代議士の多大なご尽力がごさいます。

夏野市長から散居村・屋敷林の現状と課題を説明され、中でも「私有財産である屋敷林の保全への公的支援のあり方が難しい。ついては、国として制度の裏打ちがあれば」とのこと。また、「散居村は農業が基盤であるから農業政策をしっかりとしてほしい」とのことであった。

我々は以下を述べお願いをした。「散居村を世界遺産に」理由は、日本の散居村は世界に類を見ない。日本以外にありますか？そして、散居村サミットに参加される方々は皆、「砺波が一番綺麗に残っている」と言う。よって、砺波の散居村が世界でナンバーワンである。その際、屋敷林(カイニョ)が重要になり、住民の生活の知恵の宝庫であること、景観も綺麗。これらの事を持続するため、当倶楽部は、育成と保存活動をおこなっている。

しかし、生活の変化により、落ち葉や枝がゴミ(生活ゴミ)となり屋敷林を伐採、また、風の倒木が心配で伐採されている。そこで、まずは「砺波の散居村を特区に」お願いした。

例えば、落ち葉や枝葉を固形燃料に加工し再利用する事が出来、その際、製材所等から搬出される木材くず(産業廃棄物)を混ぜて固形燃料にすると、熱量も増加し、ゴミ問題の解決にもなる。しかし、日本の法律では、生活ゴミと産業廃棄物を混ぜる事は禁止。そこで、特別に許可して頂きたいお願いした。

会場の議員の先生方からは「現地を見たい」との言葉があり、今後、現地視察があることを願っている。



(ヒヤリングの様子)



(翌日16日の北日本新聞)

□事務局天野より

ヒヤリングでは述べる事が出来なかったが、世界遺産になれば、砺波の散居村の米は、世界遺産の米であり、販路は、世界まで拡大し、農業の自立経済に近づき、散居村は豊になるのでは。

樹木をテーマにする上で、最低30年先を考える必要がある。つまり、生活の最低30年先を考えなければならぬ。都会人は自然と知恵を欲している。約20年前からテレビで日曜午後7時に自然と知恵の番組が放送されている事が証拠で、地方の時代は、今である。そして、地方同士の戦いで勝利しなくて、砺波の屋敷林のある散居村の将来は暗い。将来の夢・目標を抱き生きてゆきたいものです。

倶楽部は17年経過し、任意の当倶楽部が国政に関しヒヤリングに出席したことは、前代未聞。とても、ありがたい事です。前柏樹代表が、人と樹木の共生が大切である事を信念とし、会員の皆様が賛同し活動してきた成果だと思います。今後、事務局として、砺波の屋敷林のある散居村のためにも、屋敷林や散居村について幅広く学び皆様方に情報を提供できればと思っています。建築事務所は建物の設計だけではなく、地域計画も大きな役割です。長年お世話させて頂き感謝致しております。これからも、ご指導ご鞭撻をお願い致します。なお、言葉の表現として散村(地理学)をあえて散居村(方言)と使っています。

# 下記は、調査会でのヒヤリング提出資料

## 1. 目標と課題

### ■屋敷林のある散居村■

#### 目標

#### ■世界遺産■

——散居村は世界に誇る日本の農村の原風景——

未来へ引き継ぐ、生活と文化

○散居村は、点在した農家形態で世界に類がない

○屋敷林は、「自然との共生の手本」先人の知恵の宝庫である

—世界が求めている共生—

「情操教育の場」多種の生き物の生死のドラマがある

—世界人としての日本人の育成—

よって、散居村と屋敷林は、外国人が非常に興味を抱き、来日

住民との交流・経済効果が増加

しかし、現在、屋敷林は、衰退している

□理由は・落ち葉や枝葉の処理が出来ず、伐採

・風の倒木が心配で、伐採

衰退した屋敷林の回復が必要

### ■屋敷林の回復に関する今後の必要事項

1. 植樹(敷地を広く・都市計画法との調整)
2. 落ち葉や枝葉の再利用(固形燃料RDF)
3. 軒樋の落ち葉対策(雨樋ヘルメット等)
4. 外国人を含めた屋敷林管理講習会

## 1 - 2 …散居村は世界遺産…

### 屋敷林のある散居村 人類の知恵を明日へ!! 新しい価値の創造

#### 1 現状と課題…プラスへの転換… $\ominus > \oplus$ を $\oplus > \ominus$ に!!

- ① 各人の思い…カイニョの実利がない ないほうがよい 米づくりでは生きられない
- ② カイニョの維持…手間をかけられない 掃除・管理できない 高齢化 倒木のリスク
- ③ 空き家の発生…カイニョが荒れて人が入れなくなる 地域の邪魔もの

#### 2 解決策

##### ① 位置づけと視点；屋敷林の回復…とにかく植樹植栽!!…増やす努力

◇カイニョは、個人のものであると同時に、となみ散居村;砺波平野全域の環境

◇景観は、観光面でも宝物 地域全体の財産 全体で維持するもの

◇昔から米づくりで共生してきた農村社会の仕組みが基本

##### ② 方策

◇カイニョの価値再考と教育…物質的価値・精神的総合価値を理解し合う

○継続的な学習(子供の時のカイニョ体験、学校教育、生涯学習)

⇒情操教育・人間教育の場；大学ゼミ、中学・高校の修学旅行、小・中学校の

自然ビオトープなどとして、そのまま教材 子育て環境;天然の保育所

○基礎研究(調査研究)…湯川秀樹の父 小川琢治「孤立荘宅」

温度、風雪、CO<sub>2</sub> など環境効果の測定…

共生のサイクルや仕組みづくりを学ぶ

危機管理のための生活の知恵；自給自足可能な生活空間

○カイニョの歴史、今日的価値の探求…世界に発信 カーター「オー テンプルズ!!」

◇カイニョの持ち主が維持に全力を尽くす…新しい価値に目覚め

◇地域・行政が協力体制をとる…持ち主と同レベル

方策と組織 財政支援 屋敷林管理講習会開催 散居村サミットの継続 …

◇民間の支援体制

森林組合・造園業・建設業・レッカーなどの合同協力組織を、地域ごとにつくる

◇高齢者宅や空き家のカイニョ支援策…カイニョお手入れ支援隊の活動

◇カイニョに関心を持つ多様なチームづくり

◇民泊による都市との散居村体験交流…グリーンツーリズム 特色ある民泊；住宅/住民

◇米づくり特区、地産地消、水路の活用(水車らせん水車、発電、遊び場…) など

◇ 花と緑と実のなる木 下草；薬草・山野草・食草…

#### 3 緊急の対応策

##### ① カイニョ維持への支援

落枝葉の固形燃料化(RDF) 雨樋対策；雨樋ヘルメット

焼却場への運搬費や利用料の援助 野焼き焼却も

倒木の始末と次世代の植栽

##### ② カイニョ維持支援組織の確立…地域ごと

ボランティア；砺波カイニョ倶楽部 カイニョお手入れ支援隊 自治会…

##### ③ 空き家のカイニョ維持

空き家取り壊しと建築資材の再利用 開田の途

## 2. 風の倒木と搬出

□倒木理由：戦中以後、生活様式の変化等により樹木が多数伐採され、逆に屋敷林が風に弱くなり倒木

■倒木対策：樹木を植樹し、樹木全体で風に耐える

□問題点：屋敷林の外側に植樹する際、敷地を大きくする必要はあるが、法律上敷地を大きくできない。





理由と対策概要

平成16年  
台風23号  
での倒木

倒木樹をし  
ッカーで搬  
出

3. 風  
の倒木

『カキニヨの倒木について』

<A図>  

 杉  
立木  
(杉の根は球状で強弱しない)  
 風 →  
 杉  
樹木が1列  
1列  
平面図

<B図>  

 杉  
立木  
(1列と2列-3列で支える)  
 風 →  
 杉  
数列に植える  
1列 2列 3列  
平面図

<C図>  

 風 →  
 カキ  
杉  
立木  
(カキの根が、杉の根を太くする)  
 風 →  
 カキと杉を  
まぜて植える  
杉とカキを  
ハナリに植える  
平面図

<現状と対策>  
 A図を、B図・C図にする様にする。  
 A図の場合は木を少くし、風圧を少なくすると共に  
 B図・C図の様には樹木を植える。  
 昔このカキニヨはもてた4である。



## 4. 落ち葉や枝葉の再利用（固形燃料RDF）

□現状：落ち葉や枝葉は燃料として利用されていたが、燃料の変化（石油・ガス・電気等の普及）により、ゴミとなった。

よって、屋敷林が邪魔物とされ、伐採されている。

■対策：落ち葉や枝葉を固形燃料に加工し、再利用する。

この事は、危機管理上、地元で燃料確保が出来る一つの方法である。

よって、再度、屋敷林が生活に役立つ。



スズバ（杉の葉）



固形燃料（RDF）に加工

燃焼

ストーブ等で熱回収

## 5. 落ち葉や枝葉の固形燃料化の流れ

平成16年に田園空間整備事業となみ野地区推進協議会より、一戸の屋敷林からの落ち葉や枝葉の発生量調査依頼を受けた。

その際、心配していたゴミとの区分けは満足され、問題なく、落ち葉や枝葉だけを回収できる確証をえた。



# 枝葉の固形燃料化の流れ

